参画だより

№45
2011.11.30
弘前市民参画センター

PICK UP!

男女共同参画の視点で読む 世界の格言・名言

友情の価値は
両方が独立性を
傷つけずにつきあえる
という点にあるのだ。

武者小路実篤

弘前市民参画センター事業紹介「**さんかくセミナー**」ほか　Ｐ２・３
まなぼ「**暮らしの中にある男女共同参画**」第２回　Ｐ４
おとこの気持ち聞いちゃいました「**人生、“動”の後は“静”かな…**」　Ｐ５
さんかくひとりごと「**女は常に男のあとを歩き…**」　Ｐ５
男女（ひと）・団体（グループ）紹介「**若竹の会中弘支部**」　Ｐ６
利用者・利用団体紹介「**弘前オストメートの会**」ほか　Ｐ７
本の紹介「**辛淑玉的現代にっぽん考　たんこぶ事始**」　Ｐ８
センターからのお知らせ　Ｐ８

平成23年度さんかくセミナー
「みんなで学ぼう身近にある男女共同参画」

７月24日の第１回目セミナーの様子

今年度、弘前市では「（仮称）弘前市男女共同参画基本計画」を策定することになりました。それにあたって、市民参画センターで「みんなで学ぼう身近にある男女共同参画」と題したセミナーを開催し、男女共同参画政策の現状や男女共同参画基本計画策定の意義などについて学びました。

セミナーは３回に分けて実施し、第１回目の７月24日は青森県立保健大学教授で、弘前市の基本計画策定にも参画している佐藤恵子さんが「男女共同参画の今」というテーマで講演しました。

佐藤さんは、これまで進められてきた男女共同参画社会への取り組みの概要や、今後の課題について解説しました。そのなかで男女の地位の平等感に関する調査結果を示し、「男女共同参画の取り組みが進んできたとはいえ、まだまだ男女が平等になったといえるようになるまでには取り組みが必要」と現状を説明しました。

また、「男女共同参画を推進していくためには地域の特徴や実情を踏まえた取り組みが求められる」と指摘し、そのためにも各市町村で男女共同参画基本計画を策定することが重要、と話しました。

８月20日に実施した第２回目の「男女共同参画基本計画とは」では、佐藤恵子さんと今回のセミナーの企画運営にあたったＮＰＯ法人青森県男女共同参画研究所理事の山谷文子さんが、１９７５年の国際婦人年以降の男女共同参画推進に関する国内外の動きを紹介するとともに、内閣府が策定した男女共同参画基本計画の内容や、県内各市町村の策定状況などについてくわしく説明しました。

男女共同参画について解説する佐藤恵子さん

男女共同参画基本計画の内容を説明する山谷文子さん

９月４日の第３回「みんなで考えよう（仮称）弘前市男女共同参画基本計画」では、佐藤恵子さんが弘前市の現状と男女共同参画基本計画づくりに向けての課題を説明した後、参加者が２班に分かれ、弘前市の男女共同参画推進にはどのような取り組みが必要かを話し合いました。

話し合いでは「病児保育制度を充実させてほしい」「自分の一生をどう生きるべきかをさまざまな年齢層に考えてもらえるようなアプローチが必要」などの意見をはじめ、弘前市では三世代同居の家庭も多いことから『「上手な同居の仕方セミナー』を開いてはどうか」という提案も出されました。

佐藤さんは参加者からの多様な意見を受け、「ぜひこれからつくる弘前市の基本計画に生かしたい」と策定へ意気込みを示しました。

弘前市が策定する男女共同参画の新しいプランにはどのような施策・事業が必要なのか、２つのグループで活発な意見交換が行われました。

さんかくネットつどいの広場「親子で楽しもうＤａｙ」

講師の太田静さん（写真右）

9月25日、「さんかくネットつどいの広場」を市民参画センターで開催しました。

「つどいの広場」は弘前市の子育てサポートシステム「さんかくネット」に登録している子育てサポーターと、市内に住む子育て中の家族の交流を図る目的で毎年開催しているイベントです。

今回の広場は、「親子で楽しもうＤａｙ」と題し、手芸など共通の趣味を通じた仲間作りに役立ってもらおうと、市内で活動する「子育てサークルままのわ」との共同企画で実施しました。サークル代表の太田静さんが講師を務め、写真を小物やイラストで飾る「スクラップブッキング」の作り方や、家庭にあるものを利用した科学実験のやり方を紹介しました。

会場には子育てサークルのメンバーや子育てサポーターが作成した手芸作品なども展示され、お互いに作り方を教え合うなどしていました。また、子育てサポーターは家事や育児と趣味の時間を両立させるコツを披露し、参加した子育て中の保護者らと交流を深めていました。

スクラップブッキング作りに熱中する親子と子育てサポーター

完成した作品を見て笑顔の参加者

平成23年度第１回さんかくシアター

10月25日、市民参画センターで今年度第１回目の「さんかくシアター」を開催しました。「さんかくシアター」は、映画鑑賞を通して男女共同参画社会について意識してもらおうと市民を対象に実施している無料のビデオ上映会で、毎回市民グループが企画運営を担当しています。

今回のさんかくシアターは弘前市ボランティア支援センターで情報紙の作成などをしているボランティアスタッフが企画運営にあたり、上映作品の選定や司会進行を行いました。

上映された作品「愛の黙示録」は1995年に日韓合作映画として製作されたものです。国境や民族を越え、孤児たちのために尽くした実在の日本人女性の半生が描かれています。

今回のシアターには約30人が訪れ、ボランティアスタッフによる活動紹介や男女共同参画社会についてオリエンテーリングを受けた後、上映会を楽しみました。

さんかくシアターに集まった参加者たち

終了後、参加者からは「民族をこえた人類愛に感動した」「わが子と孤児を分け隔てなく育てた生き方が心に残った」などの感想が寄せられました。

第２回さんかくシアターは12月15日に実施する予定です。

〈問い合わせ・申込先〉
弘前市民参画センター
電　話：０１７２－３１－２５００
ＦＡＸ：０１７２－３６－１８２２

「暮らしの中にある男女共同参画」第２回

まなぼ

NPO法人 青森県男女共同参画研究所
（平成23年度担当）
県内で広く活動する会員のネットワークを活かし行政や企業、団体そして地域の皆さんとパートナーシップをとりながら青森県における男女共同参画社会の実現をめざして活動しているグループです。

女性政策から男女共同参画政策へ

女性問題に関する世論調査から男女共同参画社会世論調査への歴史

現在の男女共同参画社会への取組は、1975年の国際女性（婦人）年を契機とする国連を中心とする女性差別撤廃をめざす世界的な運動から始まりました。女性差別的な社会（＝男性中心・男性支配社会）の仕組みや意識によって生じている様々な女性問題を解決するために、女性の意識改革を始め社会的地位の向上、社会参加の促進、職場における女性差別の解消など女性を対象にした女性政策が進められてきました。それらの成果として女性たちの男女平等や自立意識が高まり、職業を始めとする社会進出が進みました。

取組が進む中で、女性が変わるだけでは根本的な問題は解決できないこと、及び女性に比べて優位な立場にあるとみられていた男性も深刻な問題を抱えていることが明らかになり、男性の働き方や生き方を変えることの必要性が認識されるようになりました。

こうした経緯を経て、これまでの男女の関係のあり方、男女の生き方の変更をめざす『男女共同参画社会基本法』が1999年６月23日に成立・公布されました。

この間、国によって実施されてきた女性差別・女性問題に関する世論調査は1972（昭和47）年の『婦人に関する意識調査』を最初として、３～５年ごとに『男女平等に関する世論調査』、『婦人に関する世論調査』『女性に関する世論調査』が実施されてきました。

1995（平成７）年には『男女共同参画に関する世論調査』となり、さらに1997（平成９）年に『男女共同参画社会に関する世論調査』と改称され、以後同様の名称でおおよそ２年ごとに実施されています。

当初は、女性の結婚観や女性が職業に就くことに対する意識など、もっぱら女性の役割や生き方に焦点をあてた調査でした。しかし1990年代に入って、男性の家事参加や仕事中心の生き方についても問う内容になり、男女共同参画社会に向けての国民の意識の現状を示す貴重なデータとして活用されるようになっています。

おとこの気持ち聞いちゃいました

Q．男女共同参画という言葉を聞いたことがありますか？

A．蓮舫大臣でしょう。大臣がいながら、まだ共同参画をいっているようでは…。

Q．自分はイクメンだと思いますか？

A．いや、お互い(パートナーと)得意分野ということで(笑)。私は厩舎で働く背中を見せて育てた…かな？(料理は、子どもさんたちからリクエストが来るほどの腕前のようです)

Q．背中の効果は？

A．息子が小学校のころは、「競馬の騎手になる」と言ってたが、今は馬術競技大会に出ていることかな。

Q．男に生まれて良かったですか？

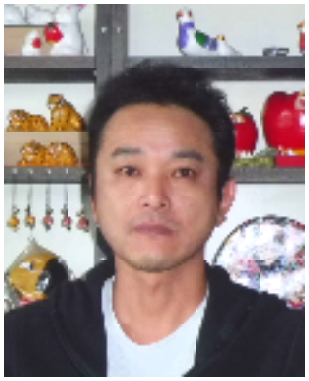
A．いや、女の人がうらやましい。

Q．これからの女性に望むことはありますか？

A．これでいいんじゃないですか…。
うんいい！！

Q．人生のターニングポイントは？

A．父の死でUターンした時かな。何も言わず、好きなことをさせてくれたから迷わなかった。



４０代・自営業・既婚

インタビューを終えて

～人生、“動”の後は“静”かな…～

工房で、一人黙々と作業をしているのを見て、脱サラしてサラブレッドを育てたいと北海道へ行った人にはとても見えなかった。(たたずまいが、ずっと前からそこに座っていたようだったから)。これからはこの背中が何を語ってくれるのか楽しみです。

梅

「女は常に男のあとを歩き、男を引き立てる。それが女の役割です。」
という先生の後ろの黒板には
～男子の務めと女子の務め～　と書かれた大きな文字が…

さんかくひとりごと

時は大正時代、小学校の教室で「尋常小学修身書」を読む少女。

男子と女子は生まれながらにして体も違い、性質も違っています。
それでみても、その務めがおのずから違うことは明らかであります。
強いことは男子の持ち前で、優しいことは女子の持ち前です。
われらの父は一家の長として家族を率い、外で色々な仕事をして働いています。
母は主婦として家にいて父を助け、家を整え、われらの世話をしています。
男子と女子がその務めを全うすれば家も栄え、国も栄えます。

「なんで女に生まれてしまったのだろう。」と思っている少女は、
先生に**「女子の務めができそうですか？」**と聞かれ、返事ができない。

テレビドラマのワンシーンである。

なるほど、この時代を生きた人たちは、このような教育をしっかりと受けてきたのだ。そして、その人たちに育てられた世代には無意識のうちに男女の役割分業が染みついているのだろう。男女共同参画社会の先は長い！

この時代から一世紀近く経過している現在、考えかたも多様化し、女性も男性も色々な生き方を選択できるようになったものの、まだまだだなぁと感じることが多い。男女が対等に支えあうようになればいいのに…。

「共に励ましあいながら同じ目標に向かう」

若竹の会　中弘支部

★若竹の会とは？

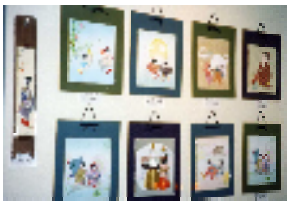
「若竹の会です」と言っても知らない人が多いようです。終戦後広島、長崎の被爆地跡の惨劇のすごさに、戦争反対を唱え、未来の子どもたちの幸せを願い、平和教育の必要を強く感じ立ち上がったのが若竹の会員なのです。

昭和43年に青森県若竹の会県本部が結成され、弘前も周辺の中郡とともに、会の趣旨に賛同する退職女性教職員で構成し、中弘支部として結成されました。現在百余名の会員で活動をしています。

会の目的は、退職女性教職員の親睦をはかり、女性の権利と生活向上をめざすことです。

この目的達成のために、社会保障制度の拡充など老人福祉に関する事業を行い、会員相互の親睦を深め教養を高めることを心がけながら、民主教育を進め、平和を守るように努力しています。

会員手づくりのお雛様と色彩豊かな布貼り絵の数々



★活動内容は？

会の役員会・委員会を開き、その内容を地域を主にした24班からなる班長を通して会員へ連絡し、各班担当の行事運営に当たっています。このような骨組みにより、協力体制ができ、会員としての自覚が芽生えてきます。会員全体が自分の班の行事に責任を持って積極的に参加し、他の班の行事にも期待して臨むことで会全体が活気づくのです。

各班活動割り当てになっている全員参加の様々な行事や、自由なサークル活動（さわやかコーラス・編物・自由話題のりんどうの会・琴の会・スキー）など、のびのびと教養や技術の向上を目指して頑張っています。

このほかにも対外的な行事への参加活動もしていて、その中でも今年10月5日に行われた「第47回中弘母親大会」では、母親の悩み・子育ての妙など、腹蔵なく語り合い明日に希望をつなぎあいました。

また、震災被災地である釜石市で開かれた全退教学習交流会北東ブロック集会では、被害の惨状も直視してきました。

★これからの展望は？

私たちの目標に近づけるために、まず、会員の健康生活を考慮して元気に、自分に合った働きが望まれています。お互いに助け合いの気持ちで、笑顔で深呼吸しながら、ゆっくりと「明日また日が昇る」を心がけ、みんなで手を取り合い世の中を良くして、たくさんの仲間と語り合い、生きる幸せを感じていきたいです。

以前はよく踊りに、歌にと施設を訪問しましたが、今はその活動まで発展出来ていないのが残念です。「万物の霊長」と言われているのですから、もう少し工夫して私たちで人のために役立つことを考えるのが今後の課題です。

また、新しい時代を努力して発展させ、豊かで、やさしく、頑張りのある若い世代のひとを増やすことが重要と考えています。困っている人の手助けや、病める人の援助など、若竹の活動の域を広めていきたいと思っています。

集まれば笑顔が絶えない会員たち

弘前市民参画センター利用団体紹介

《弘前オストメートの会》

ストーマの仲間

ストーマ（人工肛門・人工ぼうこう）とは大腸がん（直腸）、膀胱がんを摘出、切除して、お腹に装具（袋）を付け、便や尿の排泄をするところです。お腹から便・尿を出すので一般社会では、「汚い・臭う」という先入観があります。本当は、お尻は閉じられていますから健常者よりもきれいなのです。

オストメート（ストーマ保持者）の会、青森県支部（弘前地区）では、ストーマ障がい者のため、いろんな行事を実施しています。手術後の皮膚・ストーマ・合併症などの障がいの対応、対策のため、講習会・研修会・入浴体験学習会などを行っています。外科・泌尿器科の先生の講演、専門の看護師との相談会、特にお腹に袋を付けているだけで周囲の目を気にして公衆浴場、温泉に入れない方々のため入浴体験を実施して、温泉に出かけています。

ストーマの会の会報（16ページ）を2ヶ月に1回発行して健常者と同じ生活ができるように元気づけています。会報作成や資料作成には仲間と一緒に弘前市民参画センターを利用させていただいています。弘前市だけでストーマ保持者は400人を超えていますが、会員は1割弱です。今後は市民参画センターでの集まりが多くなりそうです。

夏の八甲田温泉で行われた
入浴研修会にて

お問い合わせ先
支部長　佐藤　明正
〈電話・FAX〉
0172・27・7650

講演会にて左は講師の高石先生
右は佐藤支部長

センター利用者に突撃インタビュー

60代・女性

◆当センターの利用目的と利用頻度は？
英語の勉強会とＮＰＯ活動の打ち合わせに使用しています。利用目的によって２階は週１回、３階は年に３回程使っています。

◆センターを利用しての感想は？
パソコンや印刷機等が揃っているので仕事がしやすいことと、職員がいつも親切で身近に感じて話しやすいです。

◆「男女共同参画」について感じていることを教えてください。
弘前市主催の「きらめき女性塾」で男女共同参画について学習しました。お互いに支えあう社会、それは男女や年齢に関係なく大切であると思います。

◆センターへの要望等はありますか？
環境的に地便が良いというメリットを生かして、誰でも気軽に活用できます。市民同士のふれあいや交流ができる場所なので、市民にもっと広くセンターの存在を知ってもらえるようにして欲しいです。

◆今一番の楽しみは何ですか？
人に喜んでもらえることをするのが楽しいです。良く言えば、人のためにおせっかいをしていきたいですね。損得なしで働く一日が楽しいです。

前向きな姿勢で話されているのをみて、人が自然に集まってきて交流を大切にされている方だと感じました。笑顔が素敵でした。

ｂｙ　のん

平成22年度利用状況報告

☆弘前市民参画センター

☆センター利用者数

利用場所	利用者数 22年度	利用者数 21年度
グループ活動室（有料）	14,691	13,786
ふれあいホール等（無料）	11,539	11,363
利用者数計（小計）	26,230	25,149
見学者	32	8
合計	26,817	25,157

☆活動室利用目的別件数・人数

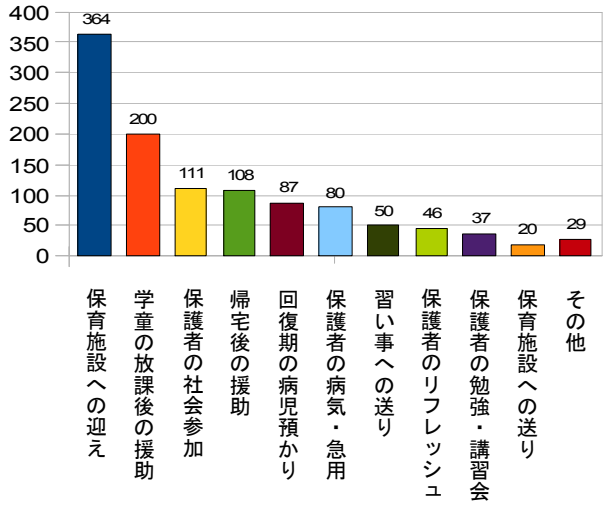
利用目的＼利用団体	公共団体 件数	公共団体 人数	一般団体 件数	一般団体 人数	合計 件数	合計 人数
会議	10	131	262	3,272	272	3,403
講習会・研修会・勉強会・講座	11	307	675	9,500	686	9,807
講演会・フォーラム	0	0	16	464	16	464
その他	5	284	71	1,288	76	1,572
合計	26	722	1,024	14,524	1,050	15,246

☆さんかくネット

☆さんかくネット利用件数・人数

利用件数	22年度 依頼件数	22年度 預かり人数	21年度 依頼件数	21年度 預かり人数
個人	751	854	883	1,039
団体	38	80	69	248
計	789	934	952	1,287

☆さんかくネット利用内容別件数（個人）



※複数依頼含む

◎休館日のお知らせ◎
弘前市民参画センターは、１２月２８日（水）～１月３日（火）まで休館します。

編 集 後 記

被災地では、ボランティア活動も次の段階に進み、復興は時とともに進んでいるようだ。今回、偶然にも以前おばあちゃんを取材し、今号でお孫さんを取材した。時を経てどちらも試練をくぐり抜け、笑顔で挨拶できたことを喜んだ。　梅

本 の 紹 介

タイトル

「辛淑玉的現代にっぽん考
たんこぶ事始」

辛　淑玉　著
七つ森書館　刊

～こうしてはいられないという思い～

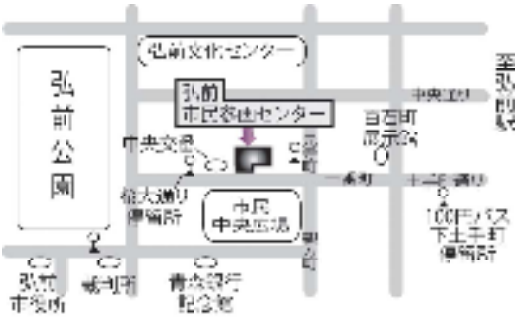
この本が発刊されて間もなく知人に勧められて読んでみた。「にっぽん政治」、「沖縄の怒りと悲しみ」、「人間らしく生き抜く」、「在日とマイノリティの心」、「女の責任とは」と各章にわたって綴る著者の思いに、ちょっとたじろいだり、みょうに納得したり、反発したりしながらも、この世の中には自分の知らないこと、無関心だったことがいかに多かったことかと、少し恥ずかしいようなバツの悪さを感じた。

貧しさの匂いのする日本人ルポライターの話、貧乏がつくづくいやだと思った子ども時代のこと、25年前はじめて事務所をかまえた場所で見た日本の差別の縮図、犯罪の裏側にある事実、相撲界から見た外国人力士の話、日本の伝統文化を下支えしてきた在日をはじめとした移住労働者の話、男女共同参画を推進する理由、などなど……自分の目で見、経験したことから語られる言葉にはかなり説得力がある。

3.11の大震災以降、今まで見えていなかったことが見え始め、間違った情報や不確かな情報がまことしやかに伝わることがあることを知った。正確な情報なのかどうか、その真偽を見極める力が必要なのにそのすべもなくもどかしさを感じることがある。結局は一つの情報に惑わされることなく、いろいろな視点から情報を得る必要があるのだろう。

この本は「こうしてはいられない。」という思いを強くさせる。私たちに問題を投げかけ、考える、話し合うという作業を促してくれる本である。

by　komori

弘前市民参画センター

〒036-8355 弘前市大字元寺町1番地13
TEL 0172-31-2500
FAX 0172-36-1822
開館時間　9:00～22:00
休館日　12月28日～１月３日
http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyo/shisetsu/kyouiku/htm_sankaku/framepage.htm